

下引ダクト用自動消火装置



【 FWP 4 BC】

(財) 日本消防設備安全センター評定合格品

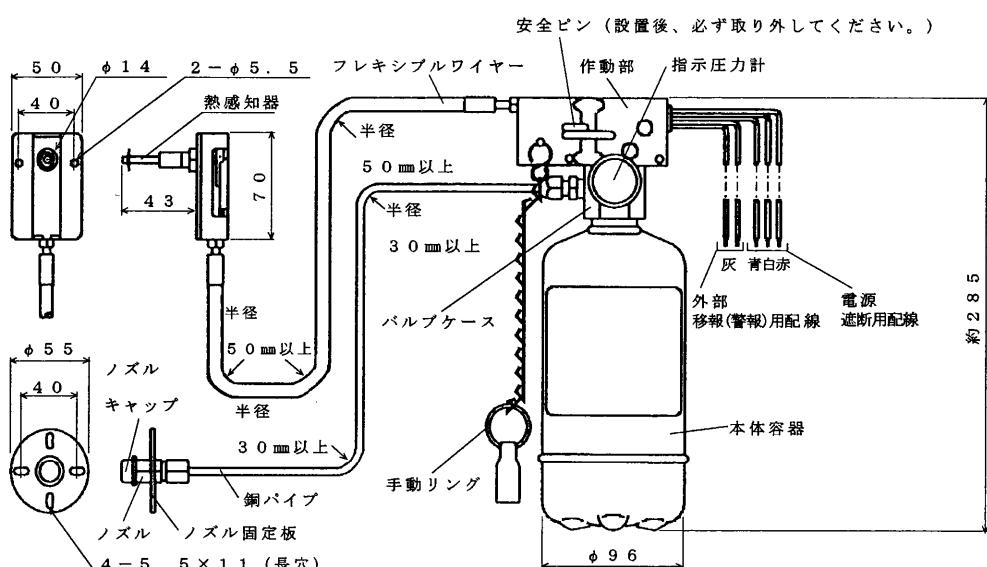
取扱説明書

このたびは、弊社の自動消火装置「ロースターレオ」をお買い上げいただきありがとうございました。

この自動消火装置は、万一口内に火災が発生した場合、熱感知器が火災の発生を感知し、ノズルより消火薬剤を放出して消火する下引ダクト用自動消火装置です。

正しく安全にご使用いただくために、この取扱説明書を必ずお読みください。
お読みになった後は、この取扱説明書を大切に保存しておいてください。

消火装置各部の名称



仕様

型式記号	FWP 4 BC
型式番号	評13-064号
消火薬剤	第3種粉末、1.0kg
感知温度	145°C
放射時間	約11秒
総質量	約2.3kg
使用温度範囲	-20°C~+40°C
移報配線	c接点、青(COM)・白(NO)・赤(NC)、抵抗負荷 5A以下
	a接点、灰(COM・NO)、抵抗負荷 5A以下

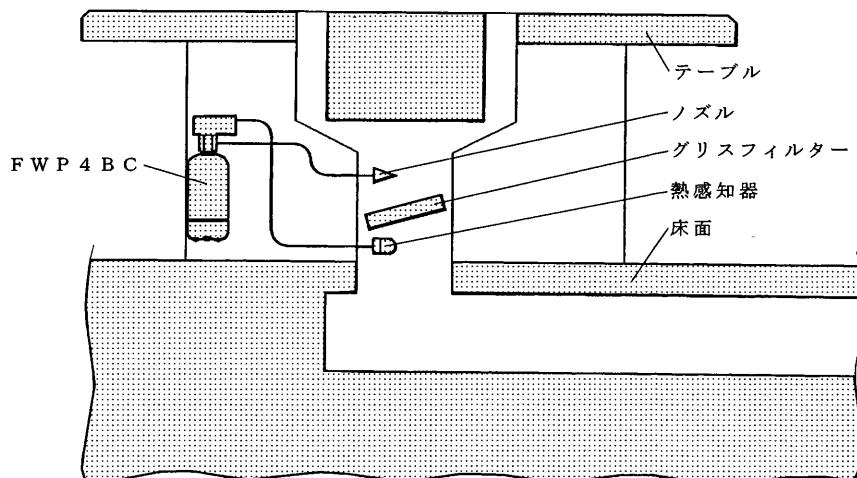
作動後の処置

▲ 注意

- ◆ ガスを使用している場合は危険ですので、消火後必ずガスの元栓を締めてください。
- ◆ 電気式ロースターにおいては、作動時にロースターの電源を、すみやかにしゃ断してください。
- ◆ 飛散した消火薬剤は、そのまま放置しておくと消火薬剤が湿気をおびカビが発生したり、金属類は腐食する場合があります。また、電気機器等の絶縁を低下させるので、すみやかに清掃をしてください。
- ◆ 消火薬剤は、人体に対し毒性はありませんが、故意に口に入れることはしないでください。万一消火薬剤が目に入った場合は、水道水でよく洗い流してください。また皮膚に付着した際は、よくはたき落としてください。落としきれない場合は、すみやかに水道水でよく洗い流してください。なお、充血・目の痛みを感じたときは、医師の診察を受けてください。
- ◆ 消火薬剤のかかった食物は、絶対に食べないでください。
- ◆ 一度放射したものは再使用できません。また消火薬剤の詰め替えもできませんので、新しい消火装置とお取替えください。その際は必ず販売店または弊社営業所にご依頼ください。
- ◆ ガス遮断弁等の復旧は、販売店または弊社営業所にご依頼ください。
- ◆ ロースターファン停止・ダンパー作動及び外部移報等の復旧は、各メーカー取扱説明書に従い行ってください。

標準設置

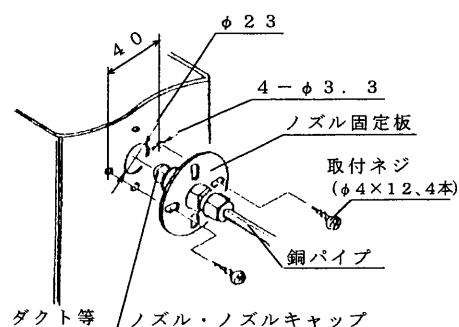
- この自動消火装置は、次の要領で取り付けてあります。



1. ノズル

※ 基本的にノズルはグリスフィルターよりも上に設置されています。

- ダクト等にφ23とφ3.3の穴をあけ、取付ネジ(Φ4×12、4本)で、ノズル固定板をロースター内に固定してあります。
銅パイプは、曲げ半径が30mm以上で、折れないように曲げ、パイプ固定金具と取付ネジ(Φ4×12、2本)でロースター内に固定してあります。
- ノズルキャップが付いていることを必ず確認してください。



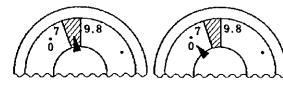
設置後の確認

▲ 注意

- ◆ 指示圧力計の指針が緑色範囲内にあることを確認してください。範囲内にない場合は、十分な能力が発揮できず、放射されない場合があります。
- ◆ 安全ピンが、取り外してあることを確認してください。取り付けたままでは、火災時に消火薬剤が放射されません。

指示圧力計

■: 緑色範囲



【単位: × 10⁻¹ MPa】

点検

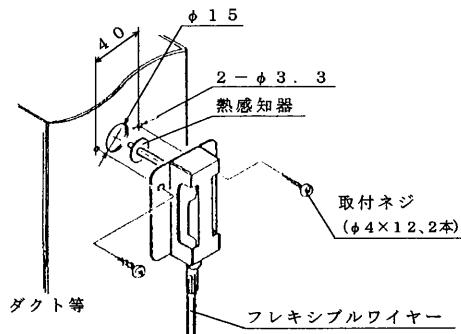
- 万一の火災発生に備え、消火装置はいつでも確実に作動できる状態でなければなりません。そのためにも、日常点検を下記に従い常時行ってください。また、精密点検は販売店または弊社営業所にご依頼ください。
- 消防法に基づき、定期点検を専門のメンテナンス業者にご依頼ください。

点検箇所	チェックポイント
指示圧力計	指針が緑色範囲内(0.7~0.98MPa)に入っているか確認してください。(上図参照) 圧力が低下していると、十分な能力が発揮されず放射されない場合があります。
本体容器	変形・腐食・破損等があると、放射不能の原因になるおそれがあります。また、斜めや横倒しに取り付けてあると、十分な能力が発揮されず、放射不能の原因になりますので、垂直にしっかりと取り付けられているか確認してください。
作動部	変形・腐食・破損などありますと、放射不能の原因になるおそれがあります。 また、安全ピンが取り外していないと、作動しません。
バルブケース	変形・腐食などありますと、圧力のモレなど生じ、十分な能力が発揮されず、放射不能の原因になるおそれがあります。
フレキシブルワイヤー	変形・腐食・急な曲がり・破損などありますと、十分な能力が発揮されず、放射不能の原因になるおそれがあります。
銅パイプ	変形・腐食・破損などありますと、十分な能力が発揮されず、放射不能の原因になるおそれがあります。
熱感知器	油等の汚れが付着している場合は、拭き取ってください。そのまま、放置されると十分な能力が発揮されず、放射不能の原因になるおそれがあります。
ノズル	油等の汚れが付着している場合は、拭き取ってください。そのまま、放置されると十分な能力が発揮されず、放射不能の原因になるおそれがあります。
▲ 警告	<ul style="list-style-type: none">◎ 日常点検の際、消火装置のネジ部等は勝手にゆるめたり、分解しないでください。(有資格者またはこの消火装置に精通している方以外は、消火装置の分解・補修等を行わないでください。)◎ 消火装置を清掃する時は、柔らかい布等で、きれいに拭き取ってください。水洗いおよび有機溶剤(ガソリン・ベンジン・シンナー等)・中性洗剤は、使用しないでください。◎ 点検で異常な点が発見された際には、早急に修理を依頼してください。そのままの状態では満足な性能が得られない場合があります。◎ 消火装置を設置された日より5年を経過している時は、新しい下引ダクト用自動消火装置とお取替えください。◎ 消火装置を整備・交換する場合は、必ず販売店または弊社営業所にご依頼ください。

2. 热感知器

※ 基本的に热感知器はグリスフィルターよりも下に設置されています。

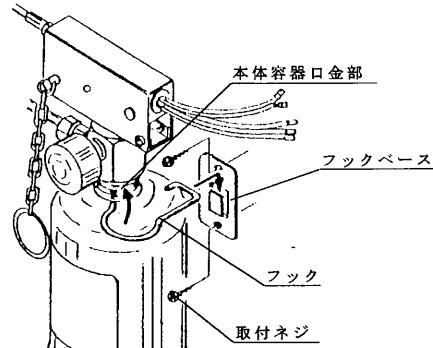
- ダクト等にφ15とφ3.3の穴をあけ、取付ネジ(Φ4×12、2本)で、熱感知器をロースター内に、固定してあります。フレキシブルワイヤーは、曲げ半径が50mm以上になるようにしてあります。



3. 本体容器

※ 本体容器には、消火薬剤と消火薬剤放出用圧力(乾燥圧縮空気または窒素ガス)が入っています。

- フックベースを取り付ネジ(Φ4×12、2本)で、ロースター内に固定してあります。
- フックを本体容器口金部に差し込み、固定したフックベースに掛けてあります。



4. 移報配線

※ お客様のご希望により、次の機能を利用出来るよう接続することができます。

- 作動部より出ている移報配線のうち、青(COM)・白(NO)・赤(NC)に接続することによって、火災時の電源遮断・ガス供給遮断・ファン停止ができます。
但し、一回路の接点出力のため、複数の接点が必要な場合は、電気工事業者にご相談ください。
- 作動部より出ている移報配線のうち、灰(COM・NO)に接続することにより、外部に警報ブザー・警報表示ができます。
- 移報配線によってコントロールされた機器類(ガス供給遮断等)を復旧する方法は、接続された配線により異なります。それぞれの機器の取扱説明書に従って復旧してください。

品質保証期間

- この機器に関する品質保証期間は、お求めの日より1年間です。

保証期間内において、取扱説明書・本体ラベル等の注意事項に従い、正常な使用状態で故障した場合は、無料修理または良品と交換致します。それ以外の補償、賠償はご容赦願います。

アフターサービスについて

※ 消火装置について不明な点、または点検についてのお問い合わせは、弊社販売店または下記の(株)モリタユージー各営業所へご連絡ください。



お問い合わせ・ご相談はフリーダイヤルでどうぞ
0120-657-702

東京本社	〒101-0041 東京都千代田区神田須田町2-3-5	TEL 03(5296)1191
札幌営業所	〒064-0806 札幌市中央区南6条西1丁目(6.1ビル7F)	TEL 011(512)0112
大阪営業所	〒564-0052 大阪府吹田市広芝町7-7	TEL 06(6338)3151
山梨営業所	〒405-0007 山梨県山梨市七日市場1431番地	TEL 0553(23)1270
中部事務所	〒492-8212 愛知県稻沢市小沢2-19-6	TEL 0587(24)7940
九州事務所	〒811-2124 福岡県糟屋郡宇美町若草1丁目3-22	TEL 092(931)1450